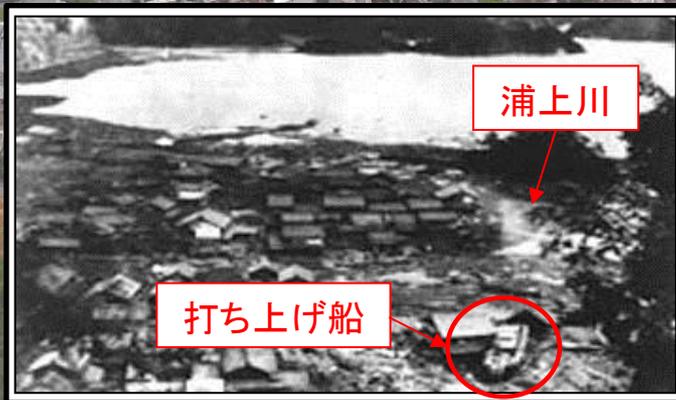


再評価【番号21】

**海岸保全施設整備事業
浅川港海岸**

1. 海岸の概要

浅川港海岸



【過去の被害】

昭和21年昭和南海地震
死者 **85名**
家屋の全壊 **161戸**
流失 **185戸**

2. 事業目的と整備方針

防波堤 + 防潮堤嵩上げ による面的な防護により、津波からの浸水を防ぐ

対象とする津波の水位 **T. P+5.00m** (L1設計津波高)

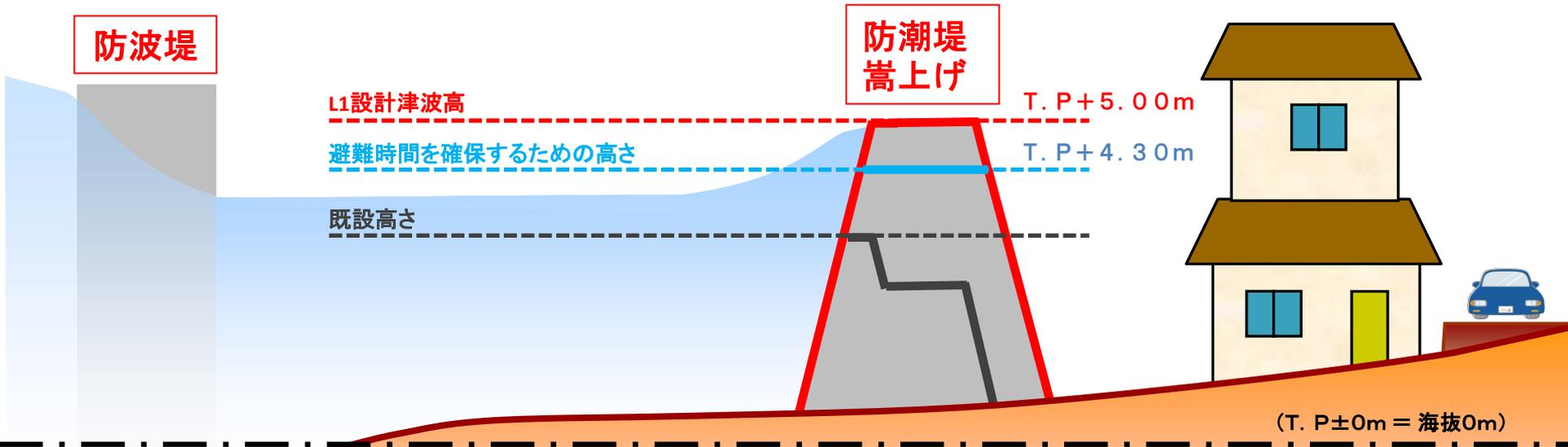
※段階的に整備を実施 【海岸保全基本計画 (H26.3) 改訂】

①避難時間を確保するための高さ **T. P+4.30m**



②L1設計津波高

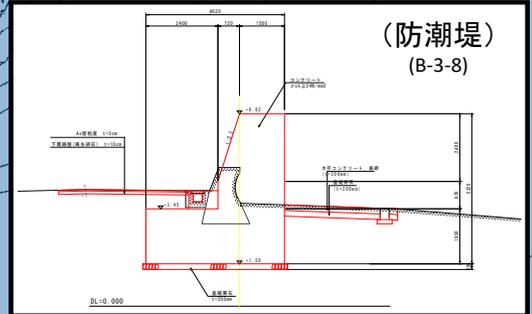
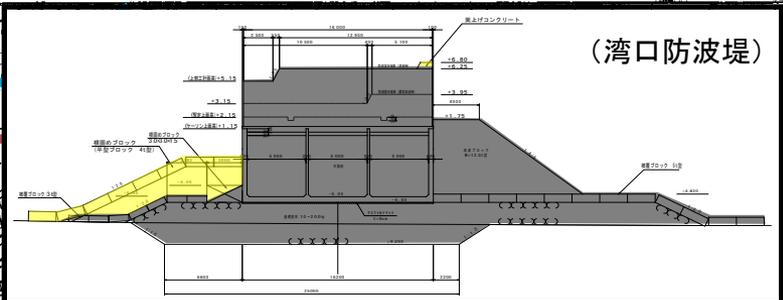
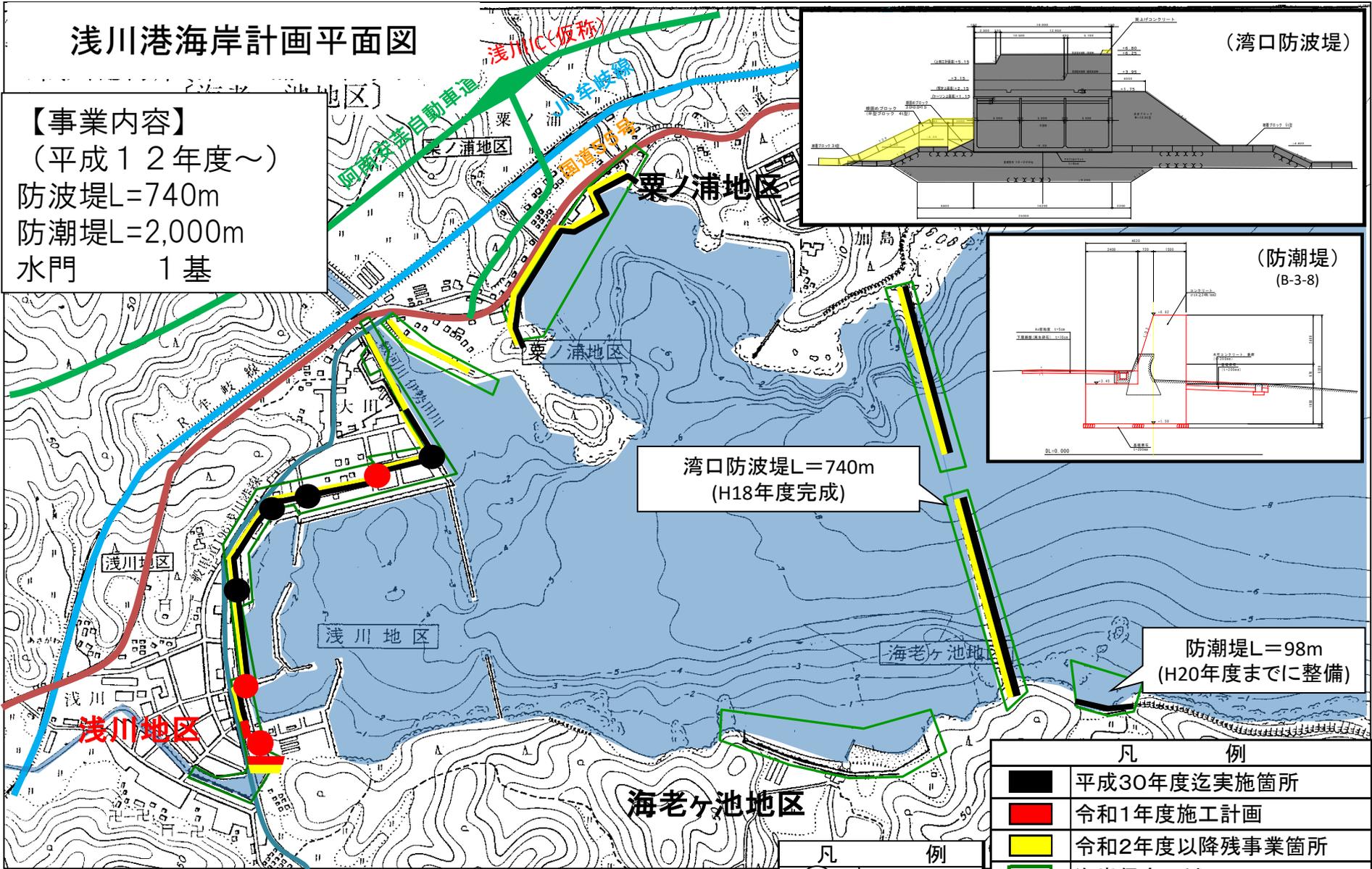
T. P+5.00m



3. 事業の進捗状況①

浅川港海岸計画平面図

【事業内容】
 (平成12年度～)
 防波堤L=740m
 防潮堤L=2,000m
 水門 1基



湾口防波堤L=740m
(H18年度完成)

防潮堤L=98m
(H20年度までに整備)

| 凡 例 | |
|-----|--------------|
| | 平成30年度迄実施箇所 |
| | 令和1年度施工計画 |
| | 令和2年度以降残事業箇所 |
| | 海岸保全区域 |
| | 港湾隣接地域 |

| 凡 例 | |
|-----|----|
| | 陸閘 |
| | 水門 |

3. 事業の進捗状況②

防潮堤嵩上げの実施



計画 約2,000m
 完成 約1,460m
 (避難時間を確保する高さ)

嵩上げ状況

フラップゲート式陸閘の整備



(浮上前)

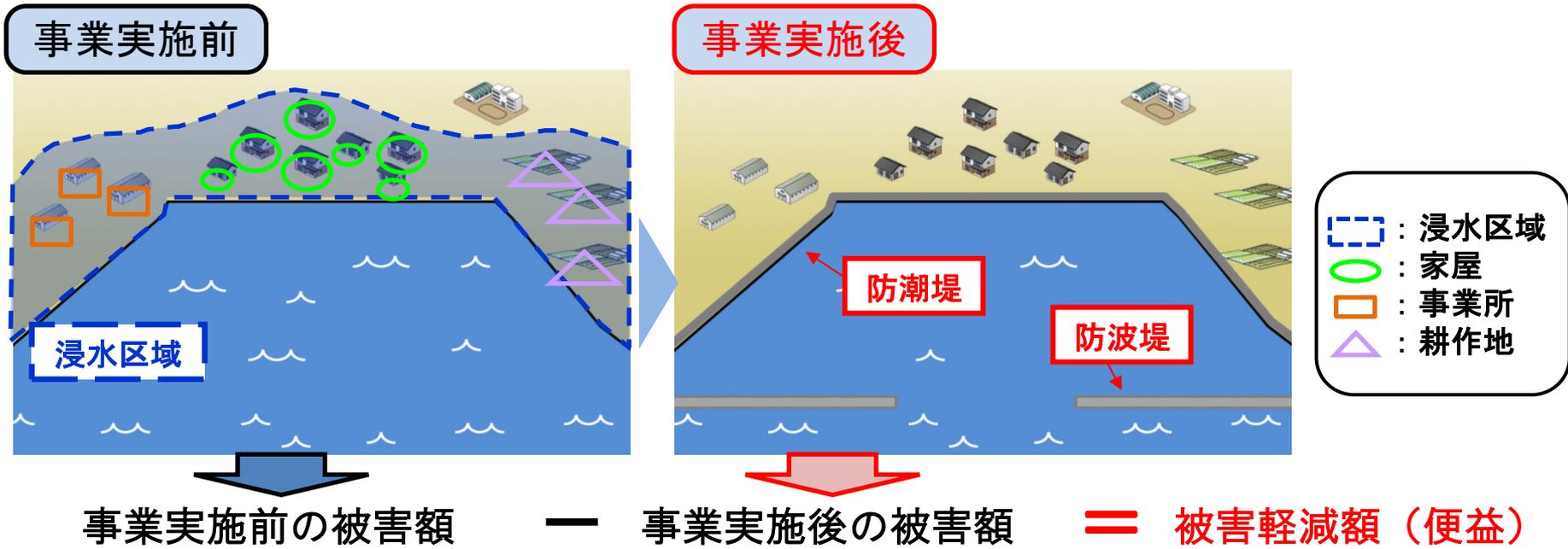


計画 7基
 完成 4基

津波による浮力により自動閉鎖

(浮上後)

4. 海岸事業の費用便益計算について



| 便益(B)に計上されている項目 | |
|-----------------|---------------|
| 直接被害 | 一般資産被害額 |
| | 農作物被害額 |
| | 農地資産額 |
| | 公共土木施設被害額 |
| | 公益事業等被害額 |
| 間接被害 | 営業停止損失 |
| | 家庭における応急対策費用 |
| | 事業所における応急対策費用 |

| 費用(C)に計上されている項目 |
|-----------------|
| 事業費 |
| 維持管理費(整備後50年まで) |

【 費用便益算定結果 】

便益B = 169.91億円 (現在価値化後)

費用C = 97.69億円 (現在価値化後)

$B/C = 1.7$

5. 多様な効果

期待される貨幣価値に現れない整備効果



緊急輸送路（国道55号線）の確保

陸上輸送機能が継続され陸域からの早期の復旧・支援活動への寄与！

防災拠点施設の機能継続・被害軽減

津波発生時における「防災拠点施設」の機能継続や被害軽減が図られ、早期の救助、復旧・復興活動への寄与！

人的被害・波及被害の軽減

人的被害、ライフラインの被災による波及被害の軽減され、災害時における地域住民の生活環境の維持継続への寄与！

陸間操作従事者の安全確保

津波の浮力で自動閉鎖する「フラップゲート式陸間」を採用し、津波発生時における操作従事者の配置が不要！

6. 費用便益分析の結果

【 B / C 】

- ・ 家屋、事業所等被害
- ・ 農作物被害
- ・ 農地被害
- ・ 公共土木施設被害
- ・ 公益事業等被害 など

計 169.91億円 (現在価値化後)

※費用C=97.69億円 (現在価値化後)

B / C = 1.7

【 その他の便益 】

貨幣価値に現れない整備効果

- 緊急輸送路(国道55号)の確保
- 防災拠点施設の機能継続・被害軽減
- 人的被害・波及被害の軽減
- 陸閘操作従事者の安全確保



防災拠点施設
①浅川漁村センター(避難所)
②海陽町役場浅川出張所



(フラップゲート式陸閘)

■ 今後の対応方針(案)

事業継続